

第17回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日時】 平成31年3月15日（金） 14:00～16:15

【場所】 軽井沢発地市庭 イベントスペース

【出席者】 名誉顧問：中村良夫先生（東京工業大学名誉教授）

基本会議委員：鈴木幹一委員、須永久委員、中嶋聞多委員、
貫名礼恵委員、藤井俊子委員、石山武委員、
瀬川智子委員、高尾幸男委員、青木健太郎委員、
上原梓委員、荻原確也委員、佐藤一貴委員

藤巻進町長

内 容

1. 開 会

2. 議 事

○ファシリテーターによる進行

【導入】

ファシリテーター

先日、各自治体の職員に向けて地方創生に関する講演を実施する機会があり、注目されているビッグデータテクノロジーを、各自治体の活性化にどのように活用すればよいかという話をした。各自治体とも様々な民間提案を取り入れながらまちづくりを実施しており、立場を超えた連携、副業が広がっている中で、官民一体となり取り組んでいかなければならない。

7月の第14回基本会議において、会長より「Society5.0」「Co-Creation」と大きな方針が示され議論を重ねてきた。これを踏まえ、本日は今年度の振り返りと来年度に向けての協議を進めていく。

会長

第2期基本会議がスタートし、方針として掲げた「Co-Creation」は、官民一体となりどのようにまちづくりを進めていくのかがポイントである。

平成30年9月に長野県とソフトバンク株式会社は、複数の分野にわたる連携と協働に関して、包括連携協定を締結した。ソフトバンクは、神奈川県とも連携と協力に関する包括協定を結んでおり、「Society5.0」の実現に向けて具体的な形で民間を活用したまちづくりを進行している。産官学と住民、地域に関わる全員が同じ課題に向かっていかに解決していくかが重要である。この会議でもそこに力を入れていきたい。本日は重要な会議になるのでよろしくお願ひしたい。

(1) 各プロジェクトチームの活動について

【導入】

○ファシリテーターより、風土フォーラムにおける今年度の振り返りと来年度に向けての確認

◆今年度の振り返り

- ・風土フォーラム基本会議のスムーズな運営。
- ・プロジェクトチーム（以下、PTという。）の立ち上げ（コミュニティ共創PT・交通関連PT・チームみらいえPT（既存））と自走の促進。
- ・エリアデザイン検討の立ち上げに向けたヒアリングおよび検討の枠組み構築。

◆来年度の進め方の想定

- ・風土フォーラム基本会議については、年3～4回開催予定。
- ・PTについては、各PTの自走に任せる。

- ・エリアデザインは、2つのエリアを本格稼働させる。

【コミュニティ共創P T】

○コミュニティ共創P T座長より、コミュニティ共創P T進捗について報告

◆コミュニティ共創P Tの方向性

- ・コミュニティ共創P Tが住民の自走をサポートするエンジンとなる。
- ・ステークホルダー（旧住民・新住民・別荘住民・企業等）による自走に向けた現状把握・施策の企画および具体的施策案の優先順位付けと実行を図っていく。

◆関係各所へのヒアリング

- ・コミュニティ共創P Tでアイデアの出た関係各所（星野リゾート・大日向区・軽井沢ウエディング協会・軽井沢町社会福祉協議会・軽井沢青年会議所）へのヒアリング等を実施し、各所における取組の状況や課題認識および協働（ワークショップ・勉強会等）の可能性を把握した。今後、ヒアリングした内容を踏まえて、施策を具体化していく。

◆次年度へむけて

- ・今年度活動の反省と改善。
- ・協働型ワークショップの企画・実施。
- ・ICTを活用した共創会議の運営。

○コミュニティ共創P T構成員より、軽井沢町社会福祉協議会主催の防災講座について報告

2月に軽井沢町社会福祉協議会と軽井沢青年会議所の共催で、防災講座が開催され、講師として関わった。コミュニティ共創P Tもしくは風土フォーラムとしても関わりを持てればと思い会長に相談したが、開催間近での相談だったため今回は実現できなかった。

1回目の防災講座では、様々な住民の質問や疑問や不安の声を聞き、専門家の先生に答えてもらう事ができた。2回目の防災講座では、観光客が多い時期に災害が起きたらどうなるのかについてワールドカフェ方式で話し合った。3回目は、東京大学大学院准教授の廣井悠先生に、

未来型の防災について講演いただいた。防災を考える事は数百年後の未来都市を考える事と同じで、100年後の軽井沢を考える風土フォーラムと同様の目的を持っている。今後も、様々なネットワークで理想型コミュニティを作っていきたい。

【交通関連P T】

○交通関連P T座長より、交通関連P T進捗について報告

- ◆第16回基本会議以降、2回のP Tを開催し、①国内外での渋滞対策事例調査、②軽井沢での具体的対策検討（「総交通量抑制・調整」、「時間的・空間的分散」、「情報発信」）について協議した。
- ◆公開シンポジウム「軽井沢の渋滞を考える」開催（案）について
 - ・平成31年5月31日（金）発地市庭イベントスペースにて開催予定。
 - ・登壇者として、国土交通省、鎌倉市、住民、役場、町内事業者を予定。
 - ・5月の大型連休時の渋滞状況等についても報告したい。

【チームみらいえP T】

○チームみらいえP T座長より、チームみらいえP T進捗について報告

- ◆平成31年3月19日（火）「地域の魅力を伝える こども企画係募集 ―早春の追分編―」を実施予定。
- ・平成31年5月19日（日）に追分宿で開催予定の小学生参加イベントの内容を、子ども達に企画係として考えてもらう。

(2) エリアデザインの検討について

○委託業者より、エリアデザインに関する進捗について報告

- ・今年度、5地区でヒアリングを実施し、エリアの課題について洗い出しを行った。今後、各エリアの団体等にテーマを決めていただき、夏に1エリア、秋に1エリアが動き出すことを想定している。

(3) 来年度の取り組みについて

会長

テクノロジーが進化している中で、各委員にはアンテナを張り巡らせてほしいとお願いしている。MaaS (Mobility as a Service の略) について、軽井沢でも検討したらどうか。

○東急急行電鉄株式会社担当者より、MaaSについての説明

◆東日本旅客鉄道株式会社（以下「JR東日本」という。）、東京急行電鉄株式会社（以下「東急電鉄」という。）は、東日本地区の地方観光拠点において、国内外観光客が駅や空港からの2次交通（バス、タクシー、AI型オンデマンド交通、シェアカー等）をスマートフォンなどで検索・予約・決済し、目的地までシームレスに移動できる「2次交通統合型サービス（以下、「観光型 MaaS」）」を提供するとともに、国や自治体と連携しながら、新しい交通手段の開発等に取り組むことで、旅行者の利便性向上と地方活性化に貢献する取り組みを検討している。JR東日本と東急電鉄は、2019年から伊豆エリアを対象に、観光型 MaaS の実証実験を行っている。

◆実証実験について

伊豆エリアにおいて、2次交通が検索・予約・決済できる機能と、宿泊施設、観光地等を連携させることで、国内外観光客が域内に点在する観光拠点をシームレスに移動できる仕組みを構築し、その効果を検証していく。今後、伊豆エリアだけでなく、北海道や東北など他観光拠点での展開も視野に入れる。

【意見交換】（発言順）

A委員

1年前、基本会議を傍聴人席から拝聴したが、その時は私1人だった。しかし本日は10人に増えており、少しずつ風土フォーラムが周知されているように感じる。

基本会議内でよく使われている「自走」について、説明があるとよい。
ファシリテーター

「自走」とは、新しい民主主義の考えが伝播していく事だと思う。

B委員

東急電鉄の取り組みを聞き、色々な繋がりでよいものは取り入れていく必要があると思う。実証実験も住民に理解を得られるのではないかな。

3. 講 話

○軽井沢 22 世紀風土フォーラム名誉顧問中村良夫先生より、今年度の振り返りと今後の展望について講話

軽井沢グランドデザインを公表してから、風土フォーラムが順調に育っていると感じる。風土フォーラムの発想は、住民が主体的に行政と一緒に軽井沢の未来を考えてほしいという事にあった。人々が集まるだけで楽しくなる場所として、公民館や会議室ではなく、レストランやマーケットがありお茶が飲める場所として、この軽井沢発地市庭を候補に挙げ、事務局を構える事ができた。現在不十分と感じる事があっても、ここで長く続けてほしい。

風土フォーラムにはモデルがある。日本の中世時代に、商工業や芸能者がグループを作り集まった「座」という組織があった。「座」では、用事が無くても寺や神社に皆が集まりお茶を飲んだりした。私は、場所を貸すだけの公民館ではなく、ホテルのロビーのような機能を持つ場所が必要だと思った。会議が終わった後にすぐ別れるのではなく、いくらか時間を過ごすことが理想的だ。

大正時代以降の新しいライフスタイル、あるいは風土の香りを総称して「軽井沢モダン」と呼ぶ。この「軽井沢モダン」を5つの場所で提起したものがエリアデザインである。

【意見交換】（発言順）

C委員

コミュニティ共創PT、基本会議内では、まだ「軽井沢モダン」はあまり深められていないように感じる。「軽井沢モダン」についてももう少し教えていただきたい。

名誉顧問

「軽井沢モダン」は、茫洋としているもので、軽井沢から発信する新しい「生きがい」の提案であり、住民の皆さんが作っていくものである。食べ物や服飾を含む軽井沢好みのライフスタイルを考えていく事が、人と人とを繋ぐ事にもなる。世界が岐路に立っている中で、「生きがい」について考え、それを世界へ発信していく事が、軽井沢の重要な役目となる。遊び感覚から始まり、それがいずれ産業化していくものである。

4. 町長所感

○藤巻進町長より

軽井沢グランドデザインを作るにあたり、中村良夫先生から提案を受けここまで進んできた。基本会議委員には各PTも進めていただき、輪が広がってきていると感じる。

少子高齢化社会は、軽井沢町にとっても大きな壁となる。子育て支援等を手厚くしても人口増に結び付けることは容易ではない。町が生き残るために、まずは関係・交流人口を増やす必要がある。医療・福祉関係を支える人口が減る中で大変な事だが、高齢者が健康でいられるよう、行政で何をすればよいのか意識しながら進めていきたい。

信州大学・東京大学との連携を進めているが、軽井沢町には大学がないので、知恵を借りて場づくりを行い、この取り組みの成果が広がっていくとよい。

会長

東京で、財界人と会った時に軽井沢の話をする、東京側からも注目していると言われる。テクノロジー等最新の情報を取り入れながら、引き続き様々な事にチャレンジをしていきたい。

5. 事務連絡

○事務局より連絡事項

- ・風土フォーラム事務局に寄せられた意見等一覧について説明。
- ・荻原委員よりお知らせ。(町役場定年退職に伴い、基本会議委員を任期途中で退任する。)

6. 閉 会